



華となれ

宮城県仙台二華中学校

令和5年度学校だより 第1号

【発行日】 令和5年4月20日

【連絡先】 022-296-8101

【文責】 副校長 武田 誠

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性をもち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ」には、社会に貢献できる真のリーダー（華＝社会の中心）となってほしいという願いを込めています。

4月7日（金）、中高の2・3年生が一堂に会し、令和5年度の始業式を行いました。

（式辞） 宮城県仙台二華中学校・高等学校長 佐藤 弘人

みなさん おはようございます。桜の開花とともに春休みが始まり、満開の中で始業式を迎えました。二華も季節の進みが早いです。新しい学年のはじまりです。

自分自身に聞いてみましょう。1年前からの成長を感じますか。昨年も問いかけましたが、新しいクラスの仲間の様子はどうか？前後左右の仲間の顔をちょっと覗いてみてください。今日のお互いの姿が出発点です。これからは感染対策の呼びかけも変わります。マスクの着用は一人一人の判断に任せます。勿論、日頃の体調管理は自分のためにも、家族や仲間のためにも続けてください。表情豊かな仲間とともに新たな学年で成長していくことを期待しています。

始業式にあたって皆さんに伝えておきたい言葉や考え方があります。昨年の始業式では、世阿弥の「稽古は強かれ、諍識はなかれ」という言葉を皆さんに伝えました。「諍識」という、できるつもりになって油断していると成長できないという戒めでありました。

今年は論語から「下学上達（かがく じょうたつ）」という言葉を示します。

「子曰く 天を怨みず 人をとがめず、下学して上達す それを知るもの それ天か」これは、孔子の晩年の言葉です。「私に政治を任せられる国王はいなかったが 天を恨んだり 人をとがめようとは思わない 身近で分かりやすいところから学びはじめ 一步一步着実に高い段階に登ってきたのだ 私のこの歩みを知ってくれるのは天のみである」という意味です。その一節から「下学上達」を取り出しました。「下学」は身近でわかりやすいこと、基本的なことです。「上達」は、高度な学問的な真理に到達することを意味しています。高度なことを身に付けたいのであれば、最初は基礎・基本を大切に、いつの日か人の道や道徳も知り、やがて真理に到達するということです。

皆さんに当てはめてみましょう。学習において難しくより高度な内容を理解しようとしたり、課題解決に向かおうとする時に道筋が見えなかったり、すぐには答えが出なかったりするとき。また部活動に当てはめても、高度な技術を身に付けようとしたり、格上の相手に挑もうとしたりする場面に直面したときに、孔子は、「下学」である基礎・基本を着実に磨いていかなければ、目指すところには到達できないと言っているのです。土台が不安定なところで高みを目指そうとするとき、途中で崩れてしまう危うさがあるとも言えます。最近「圧倒的基礎力」という言葉を様々な場面で耳にするでしょう。このことにもつながっている気がします。勉強や部活動、課題研究に向き合う皆さんに心得ておいてほしい考え方でした。

今日のもう一つ、話しておくことがあります。これまで感染症対策で制約が多かった学校生活でしたが、健康管理を確実にやるのが前提ですが、新たな学校生活をつくっていくこととなります。二華の本領発揮です。海外との交流も再び盛んになってくるでしょう。中学校では、シンガポールとの交流がオンラインから対面での交流へ発展する予定です。高校ではメコン川FW・デラウェア研修も再開され、台湾への修学旅行も計画されています。また二華では、昨年に引き続き交換留学生としてフィンランドからの生徒を来週から高校2年生のクラスに迎え入れます。ALTの先生やバカロレアの先生方も含めると外国からの先生方は9カ国13人おいでになります。文化交流の行事も企画されるでしょう。皆さんも二華で学ぶ者として、自分が身に付けたことや身の回りの生活はどのようで、自分はどう考えているのかなどを積極的に発信できるようにしていく必要があります。そして同時に、相手の意見を丁寧に聞き、相手の人格を認め、自分の言葉で考えを伝えられる人になってほしいのです。そのため、相手の表情を読み取りながらのコミュニケーションの重要性が増していくでしょう。

福沢諭吉は「学問のすすめ」で開国したばかりの日本人に「社交」の重要性を説き「自分を正當に認めてもらうためには言葉を選ぶ訓練をせよ、明るい表情で話をせよ」と説いています。

新学年の始まりに、論語から「下学上達」、学問のすすめから「社交」「言葉を選ぶ訓練をせよ 明るい表情で話をせよ」を皆さんに示しました。二華の新たなスタートです。心機一転、仲間そして先生方とともに歩んでいきましょう。

令和5年度入学式

令和5年度の入学生105名が新たに二華生の仲間に加わりました。全校生徒315名と25名の教職員スタッフを合わせ、総勢340名で宮城県仙台二華中学校がスタートしました。



(入学生代表入学の言葉) 仙台二華中学校 入学生代表 H・Tさん

暖かな日差しの下で、花々が芽吹き、生き物が輝きだすこの良い日。私達はこの仙台二華中学校に入学しました。

本日は、私達のためにこのような立派な入学式を行っていただき、ありがとうございます。校長先生をはじめ皆様方から励ましのお言葉を頂き、この学校に入学できた喜びが改めてこみ上げてきました。

ここ、仙台二華中学校には、県内各地の小学校から多くの仲間が集っています。新たな環境で、105名の仲間と共に始まるこれからの生活が、とても楽しみです。

私が学校生活の中で特に力を入れて取り組みたいのは、英語の学習です。英語の学習では、同級生と積極的に会話をし、将来の可能性を広げるためにも、コミュニケーション力を育みたいのです。また、部活動や学校行事にも積極的に取り組み、仲間とたくさんの思い出を作りたいと考えています。

私は将来、青年海外協力隊に参加し、助けを必要とする人の力になれるような活動をしたいと考えています。そのためには、自ら考えて行動する力が必要です。これからの六年間で様々なことに意欲的に取り組み、自分の目標をより明確なものにし、一步一步努力していきたいと思えます。

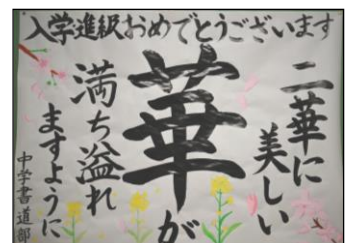
これから始まる中学校生活で、私たち1年生は一丸となり、何事にも真剣に取り組んでまいります。先生方、先輩方の御指導のもと、頑張りますので、よろしくお願い致します。

仙台二華中学校の生徒であることに誇りを持ち、志の高い仲間と切磋琢磨しながら、何事にも前向きに取り組むことで、自らを心身共に成長させることを誓い、入学のことばと致します。



「生徒会入会式」 ～ 生徒会総務が入学生を歓迎 ～

4月11日(火)に生徒会入会式がありました。2部構成で感染症対策を講じながら、1部は高校と合同で年間行事の紹介動画を視聴しました。2部は第二体育館に会場を移し、中学校生徒会総務が企画した学校生活紹介と部活動紹介の動画を視聴し、1年生はこれからの学校生活をイメージすることができたようでした。その後、学年を越えた縦割り活動「みちのく交流プロジェクト」に取り組みました。ようやく1年生のこやかな表情も見られ、先輩・後輩の絆づくりの和やかなスタートを切ることができました。



↑書道部からのメッセージ